救いに至る悔い改め

信仰は、イエスによる救いを受け取る私たちの手にたとえられるように、悔い改めは、死んだ行ないを拒否する手にたとえられるかもしれません。

救いに至る信仰は、単にイエスの死が必要であるだけではなく、完全無欠であることを認識します。イエスの死は、人間の努力や良い行ないとは全く関係なしに、私たちのすべての罪を清算しました。それは人間の努力や良い行ないによってではなく信仰によってのみ自由に与えられるものなのです(ガラテヤ人2:21、3:10—14、5:1—5)。

この小冊子の3ページの質問にもどってみましょう。神が天国に入れてあげるけど、どうしてだと思いますかと質問された時、なんと答えますか。もし洗礼を受けたからとか、清く正しい生活をしているからとか、その他イエスを信じること以外のどの答をしても、その人は悔い改めなければなりません。私たちは過去、現在、未来のどの時点においても宗教じみたことに頼るのをやめなければなりません。そしてただイエスにのみ頼って行こうではありませんか。

第三：しょく罪(和解)

キリストの死は、私たちの罪を完全にあがなったので、神の怒りと罪に対する処罰を清算しました。

イエスは私たちの罪の身代わりに死んで下さったので、神の罪に対する処罰は清算されました。イエスは、すべての私たちの罪をあがなわれたので、その清算して下さったイエスを受け入れる者は、神の罪に対する永遠の怒りを受けなくてすみます。イエスがすべての人の罪の代価を支払われたのです。

> **「しかし、彼を砕くことは主のみこころであり、主は彼を悩まされた。彼(神なる父)が、自分(イエス)の命を、罪過のためのいけにえとするとき・・・・・・彼は自分の魂の激しい苦しみのあとを見て満足する。」** **(イザヤ書53章10—11節)**

> **「イエスは酸いぶどう酒を受けられると、『完了した。』と言われ、頭をたれて、霊をお渡しになった。」** **(ヨハネ伝19章30節)**

「完了した」ということばは、キリストの時代にローマ帝国で債務が全部支払われた時、事実使われていました(ケトル辞書<Kittel>、第8巻、57、60ページ)。イエスが息を引き取る直前に、このように叫んだのは、イエスは私たちの罪に対するすべての支払いを完了して下さったことを意味します(参照聖句、コロサイ人2章13—14節)。

このようにイエスはご自身の死によって、私たちの罪の代価を支払い、神と私たちの仕切りの壁を取り除いて下さいました。

どうしてイエスの死は、私たちのすべての罪を支払われたばかりではなく、あらゆる時代のすべての人の罪をも支払うことができたのでしょうか。　　それは次に説明しましょう。